

令和3年度 さいたま市立土合中学校 学校関係者評価書

さいたま市立土合中学校

学校関係者評価委員長 田辺 雄一



1 学校関係者評価の実施体制

(1) 構成人数

9名 (内 学校3名)

(2) 実施回数

2回

2 学校関係者評価 (学校関係者評価委員の意見等)

- ・校長のリーダーシップのもと、これまでのように学校運営に取り組んでいただきたい。地域は、それに協力していく。
- ・「さいたま市 GIGA スクール構想」における ICT を活用した学びの推進もよいが、あくまでも ICT は手段であり、対面による指導を改めて重視し、生徒と向き合い、触れ合いを大切にしながら指導を進めていただきたい。
- ・生徒から「学校は楽しい」という声は聞いている。コロナ禍においても行事等の実施形態、方法等を工夫し、より多くの生徒が土合中学校に入学してよかったと感じられるようにしていただきたい。
- ・土合中学校独自の「ステップアップルーム」による不登校生徒への対応は大変素晴らしい。ただ、不登校生徒への対応は家庭の協力なしには成果が表れにくいと考えられる。より一層、家庭との連携を密にして保護者の協力のもと対応していくことが必要であると考えます。
- ・生徒会を中心に生徒の声を聞きながら校則を見直す取組は素晴らしい。SNS の扱いについては、大人の知らないところでトラブルに発展する。正しい利用の仕方については、学校で積極的に適切な指導をいれていただきたい。
- ・働き方改革については、教師の仕事は時間で区切るのが困難な面があると思うが、教職員が生徒との時間を大切にしながら、生き生きと活躍できる職場環境になるように地域も協力していきたい。
- ・コロナ禍の影響で地域の行事や集会等が実施できず、その中で異動があるために、地域を知らない職員が増えてきている。コミュニティ・スクールの実施に向けて、また、学校、地域、家庭のより一層の連携に向けて、関係者の確実な引継ぎと、つながりの再構築に努める必要がある。

学校関係者評価を受けた学校の対応

- ・あくまでも ICT を1つの手段とし、生徒との触れ合いを大切にしながら「よい授業」の実施に向けた授業改善に努める必要がある。
- ・生徒がより一層学校が楽しい、本校に入学してよかったと感じられるように新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながらも、行事等の実施方法をさらに工夫していく必要がある。
- ・本校独自の「ステップアップルーム」の取組をさらに充実させるとともに家庭との連携をより密にし、保護者の協力を得ながら不登校生徒数を減らしていきたい。
- ・コロナ禍においても地域等とのつながりが途切れることのないように、職員間の引継ぎを確実にするとともに学校運営協議会の効果的な活用に努める。

さいたま市立土合中学校長

吉田 賀一

